

# 「理想の看取りと死に関する国際比較調査」 事例と調査項目(抜粋)

ILC-Japanでは2010年および2011年に世界9か国における医療・介護の専門職(総数2,343件)を対象に「理想の看取りと死に関する国際比較調査」を行った。

以下は、典型的な終末期のあり方として想定される2つの臨床事例(ケース1:末期ガンとケース2:重度認知症)を用いて、それへの理想的判断と実際の対応についてアンケート調査を実施した調査項目の日本語版(抜粋)である。

## ケース・1

Aさん(女性、85歳)。現在入院中の末期ガンの患者(余命1か月)で、日々の痛みのコントロールに薬品が必要。本人の意識は一部ははっきりしていないが、言葉による意思疎通は可能であり、記憶力も日常生活を送るのには問題がないレベルである。ただし、すでに足腰に影響が出ており、日々の排泄等に介助が必要となっている。家族については、すでに夫は死去しており、車で15分程の近隣に息子夫婦が住んでいるものの、2人とも働いており平日に時間的余裕は少ない。また本人は金銭的にも豊かではなく、年金を主たる生計手段としており、自宅のトイレや段差などの改修も単独の資金で行うことは難しい。本人は夫との思い出がある自宅での最期を希望しているものの、「無理を言うてはいけなね」と話している。

ケース1を読んで以下の設問に回答をお願いします。

- (1) Aさんのケースにおいて、終末をどこで迎えることができるように支援することがふさわしいと思いますか。  
(1-2) あなたのこれまでの経験を踏まえ、Aさんのケースの場合、実際にはどこで終末を迎えることになると思いますか?

- (2) Aさんのケースにおいて、実際に介護付き住宅、老人ホーム、療養病棟、病院・診療所、ホスピス(施設)、ホスピス(在宅)を利用する場合、入所や入院までに待機する必要があるかどうか。このケースでは制度的に利用できないか、施設自体が存在しないので利用できないですか?
- (3) Aさんのケースにおいて、今後の治療や看取りの方針を決定するための議論の主導権を誰が持つことがふさわしいと思いますか?  
(3-2) これまでの経験を踏まえ、Aさんのケースの場合、実際には今後の治療や看取りの方針を決定するための議論の主導権を誰が持つことになると思いますか?
- (4) Aさんのケースにおいて、今後の治療や看取りの方針を決定する際に、Aさん自身の意向を踏まえた上で、重視すべきと考える点はどれですか?
- (5) Aさんのケースにおいて、基本的な医学的知見(病状、予後など)以外に、何をご家族(息子夫婦)に説明しますか?
- (6) Aさんのケースへの対応の基本方針として、選択することが「もっとも望ましい」と考える選択肢はどれですか。  
(6-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか?
- (7) それでは、Aさんのケースへの対応の基本方針として、実際には、どのような選択をすることになると考えますか。  
(7-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか?
- (8) Aさんのケースの来るべき死に向けた方針として、選択することが「もっとも望ましい」と考える選択肢はどれですか。  
(8-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか?

## ケース・2

Bさん(男性、80歳)。自宅で妻と2人暮らしをしている。認知症(アルツハイマー病)と診断されてすでに10年が経ち、意識障害はないものの、近親者や介護士が呼びかけても目を動かさず程度であり一般的な意思疎通には多大な困難がある。また、半月前にひどい熱と咳のために病院へ受診したところ、肺炎と診断された。現在は、食物を飲み込むことができなくなってきており、点滴による薬剤と栄養剤の投与を行っている。口からの栄養摂取は不可能なため、十分な栄養摂取のためには近い将来に人工栄養摂取が必要となる。妻(80歳)は在宅での生活の継続と看取りを希望しており、また少しでも長い時間を一緒に過ごしたいと希望している。経済的には持ち家に住み、厚生年金などを受給しているために安定しているものの、妻自身の介護能力は低く、近隣に近親者はいないため、妻自身はこれまで以上の介護には大きな不安を感じている。

### ケース2を読んで以下の設問に回答をお願いします。

- (1) Bさんのケースについては、あなたはこの状態を「終末期」にあると考えますか？ その理由についても簡単にお書きください。
- (2) Bさんのケースにおいて、終末をどこで迎えることができるように支援することがふさわしいと思いますか。  
(2-2) Bさんのケースの場合、実際にはどこで終末を迎えることになると思いますか？
- (3) Bさんのケースにおいて、実際に介護付き住宅、老人ホーム、療養病床、病院・診療所、ホスピス(施設)、ホスピス(在宅)を利用する場合、入所や入院までに待機する必要があるか？ このケースでは制度的に利用できないか、施設自体が存在しないので利用できないですか？
- (4) Bさんのケースにおいて、今後の治療や看取りの方針を決定するための議論の主導権を誰が持つことがふさわしいと思いますか？  
(4-2) Bさんのケースの場合、実際には今後の治療や看取りの方針を決定するための議論の主導権を誰が持つことになると思いますか？
- (5) Bさんのケースにおいて、今後の治療や看取りの方針を決定する際に、Bさん自身の意向を踏まえた上で、重視すべきと考える点はどれですか？
- (6) Bさんのケースにおいて、基本的な医学的知見(病状、予後など)以外に、何をご家族(Bさんの妻)に説明しますか？
- (7) Bさんのケースへの対応の基本方針として、選択することが「もっとも望ましい」と考える選択肢はどれですか。  
(7-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか？
- (8) Bさんのケースへの対応の基本方針として、実際には、どのような選択をすることになると考えますか。  
(8-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか？
- (9) Bさんのケースの来るべき死に向けた方針として、選択することが「もっとも望ましい」と考える選択肢はどれですか。  
(9-2) 上記の方針を選択する理由はなぜですか？